

■古橋義真 篤農家。父の後を継ぎ、新時代に対応すべく試行錯誤の後、三河農会を結成、地域の農業と金融界に貢献。

ふるはしよしざね

国定忠治磔・1850＝ 古橋暉兒の長男に生まれる。英四郎。

ペリー来航・1853＝ 3歳：

安政の大獄・1859＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝10歳：

この間、父は国事に奔走するようになり、

明治維新・・1868＝18歳：新政府に出仕する父の代りになるべく、名主見習となる。

初の日刊新聞1870＝20歳：*早くも「時勢三条」を建議。近郷の8箇村の取締となり、のち東加茂郡4箇村の取締を兼ねる。

学問のすすめ1872＝22歳：義真と改名し、中津川の間都留と結婚。家督を継いで名主となる。父とともに、{明月清風校}創設。

明治6年政変 1873＝23歳：地券掛附属。養蚕世話掛。第九中学区取締となる。

佐賀の乱・・1874＝24歳：第一三大区副区長になり、新城に赴任。

初の民間工場1875＝25歳：第一三大区長。

三つの内乱・1876＝26歳：第一四大区(北設楽)長として清崎村に赴任。この年、_{明月清風校}が稲橋小学校となる。

西南戦争・・1877＝27歳：第一回内国博覧会を参観。

大久保暗殺・1878＝28歳：*父暉兒とともに、わが国初の農談会を開設、のち全国の系統農会に発展して行く。北設楽の郡長となり、

夏焼に県立産馬講習所を設けるなどしたが、父の老齢を表向きの理由に、

・・・・・1880＝30歳：北設楽郡長を辞めて、帰村。北設楽郡御用係となり、私費で、産馬講習所を段戸山に移す。

明治14年政変1881＝31歳：長男唯四郎(のち道紀)が誕生。

新体詩抄・・1882＝32歳：北設楽郡御用係も依願免職、心ならずも愛知県議員に当選し、固辞。

岩倉具視没・1883＝33歳：馬政に関する建議。_{自由民権運動の昂揚に対抗すべく、{愛知日々新聞}創刊に関与し資金援助するも、

秩父事件・・1884＝34歳：父暉兒を会長に、北設楽郡報徳会をつくる。_{廃刊となる。

内閣発足・・1885＝35歳：「五人組再興書」「稲橋村勤儉貯蓄申合規約」をつくる。

帝国大学始・1886＝36歳：愛知県議員に当選。東加茂郡長、北設楽郡長に転じ、まもなく東加茂郡長も兼務するが、

国民之友始・1887＝37歳：知事勝間田稔と意見が合わず、依願免職して、再び帰村。

帝国憲法発布1889＝39歳：松方財政の影響で、村民はもちろん、豪農古橋家の経営も振るわなくなるなか、

有栖川宮に建白。_{稲橋村名誉村長。

足尾鉾毒始・1891＝41歳：山林払い下げ嘆願に重きを置くようになり、

大本教・・・1892＝42歳：北設楽郡参事委員。

郡司千島探検1893＝43歳：父暉兒が死去。この年、中山道鉄道、中津川線に決定、三河線案敗れる。

日清戦争始・1894＝44歳：*県下158の農談会を統一し三河農会を結成して会長となる一方、稲橋村村長となって郷里の中心に立ち、

日清戦争終・1895＝45歳：全国農事大会委員、その他各種委員歴任。_{大日本農会紅白綬有功章を受ける。

製茶では自ら種子を購入して農家に配付し、

八幡製鉄始・1897＝47歳：愛知(濃尾)農工銀行創立委員。_{地方制度の変更で、稲橋・武節組合村村長になる。

子規句歌革新1898＝48歳：長野県下伊那郡に山林を購入して、_{山林経営に進出。百年植樹法なるものを導入、各戸ごとに毎年100株の

樹を植えさせ、100箇年伐採させないようにすべく、家の田を村に供託してその作徳を彼らに供与、のちに

、村民が植林が有利であることを知って作徳を辞退すると、これを村役場を建てるのに用い、村に貸与。

・井山製板合資会社に続いて稲橋銀行を創立。さらに三河産馬組合を設立し、組合長に就任など、

田中正造直訴1901＝51歳：段戸山に農商務省愛知県種馬所設立。

教科書疑獄・1902＝52歳：大日本山林会有功賞を受ける。

日露戦争始・1904＝54歳：

日露戦争終・1905＝55歳：

_{ほかに、養蚕、産馬、貯金の奨励など、独自の案を考出し、理解の乏しい反対者の説得につとめながら、

一定の成果をおさめて、稲橋を中心に、三河地域の農業と金融界に大きく貢献、

神道の崇敬者でもあり、神道葬祭を奨励し、伊勢神宮参詣を奨め、神職の養成にもつとめた。

伊藤博文暗殺1909＝59歳：*三河産馬組合より功労賞、稲橋・武節組合村より功労賞。藍綬褒章を授けられた日に、没した。